令和４年度宮代町社会福祉協議会　事業報告

Ⅰ　総括的事項

我が国の経済は、長引くコロナ禍からの社会経済活動の正常化が進みつつある中で、緩やかな持ち直しがみられますが、その一方で、世界的なエネルギー・食料等の価格の高騰などにより、地域経済を取り巻く環境は依然厳しさを増しており、住民の皆様の生活にも大きな影響を及ぼしています。

このような厳しい状況の中で、宮代町社会福祉協議会（以下「社協」という。）では、社会的不安に寄り添い、深刻化する地域の「孤立」を未然に防止するとともに、地域の皆様の生活を支える事業を展開し、「誰もが安心して暮らせる地域づくり」に取り組んでまいりました。

特に、令和４年度におきましては、住民参加による地域福祉活動を推進し、地域のつながりや協働の力を高めていくため、住民主体の見守り活動を展開する「みまもりの「わ」事業」をはじめ、社協と協働により地域福祉活動に取り組む「すてっぷ宮代活動チーム登録制度」を立ち上げ、多様な組織や関係者との連携体制の構築に努めました。

また、ひとり暮らし高齢者の安否確認や交流事業をはじめ、障がいへの理解を深めるため、障がいのある方と地域を結ぶ交流事業を実施しました。

日本工業大学及び町との協働事業では、認知症フレンドリー社会の構築に向けた取組みとして、合同展や福祉機器展を開催し、地域で共に暮らす社会づくりを発信しました。

子どもたちの孤立を防ぐ事業では、子ども食堂「ゆうやけひろば」の運営をはじめ、地域の様々な活動団体等が主体となって取り組む「新たなこどもたちの居場所づくり」を推進しました。

生活の厳しい方に対しましては、フードドライブを活用した食糧等支援や生活資金の貸付事業等を実施し、住民の皆様の自立した暮らしを支えました。

また、福祉交流館すてっぷ宮代が、地域福祉交流拠点施設としての機能を発揮するため、「西原自然の森フェスタ」をとおして、人が集い、交流する機会を提供するとともに、「すてっぷ宮代活動チーム交流会」を開催し、地域共生社会の実現に向けた福祉活動のネットワークづくりに取り組みました。

介護・障がい福祉サービスにおいては、利用者及びご家族との信頼関係を構築し、一人ひとりの特性やニーズに寄り添ったきめ細かいサービスの提供、支援に努めました。

今後も、地域の「孤立」を防ぎ、不安に寄り添い、つながる取組みを進め、複雑化、多様化する福祉的課題に向けた包括的な支援サービスを提供するとともに、福祉交流館すてっぷ宮代が地域福祉拠点施設としての機能を十分に発揮していけるよう取り組んでまいります。

−目　　次−

１　法人運営　Ｐ１
２　地域福祉の推進
　（１）地域福祉活動の推進　P3
　（２）福祉交流・活動拠点の推進　P4
　（３）福祉のまちづくり啓発活動の推進　P6
３　高齢者・障がい者・児童福祉の推進
　（１）高齢者福祉の推進　P8
　（２）障がい者福祉の推進　P10
　（３）児童福祉の推進　P11
４　ボランティア活動の推進（ボランティアセンターの運営）　P13
５　相談支援・権利擁護
　（１）日常生活自立支援　P14
　（２）生活困窮者支援　P15
　（３）福祉資金貸付　P16
６　在宅福祉サービス　P18
７　介護・障がい福祉サービス
　（１）居宅介護事業　P19
　（２）訪問介護事業　P19
　（３）障がい福祉サービス事業　P20
　（４）相談支援事業　P22
８　その他
　（１）共同募金会宮代支会　P23
　（２）日本赤十字宮代町分区　P23

１法人運営

（１）理事会・評議員会・監査会

定款第１３条及び第２１条、第２２条に基づき、理事会・評議員会・監査会を開催しました。

■理事会の開催

開催年月日	議　事　内　容	出　席　者	結　果
第１回 令和４・５・30	議案第１号　令和３年度事業報告について 議案第２号　令和３年度収支決算について 議案第３号　第１回評議員会の招集について	理事総数 12 名中 10 名出席 監事総数 2 名中１名出席	原案可決 原案可決 原案可決
第２回 書面決議 令和４・12・23 付け	議案第１号　評議員候補者の選任及び評議員選任・解任委員会の招集について	理事総数 12 名 監事総数 2 名	原案可決
第３回 令和５・３・24	議案第１号　令和５年度事業計画について 議案第２号　令和５年度資金収支予算について 議案第３号　第三者委員の選任について 議案第４号　役員等賠償責任保険の契約について	理事総数 12 名中 12 名出席 監事総数 2 名中 0 名出席	原案可決 原案可決 選任可決 原案可決

■評議員会の開催

開催年月日	議　事　内　容	出　席　者	結　果
第１回 令和４・６・16	議案第１号　令和３年度事業報告について 議案第２号　令和３年度収支決算について	評議員総数 26 名中 19 名出席 監事総数 2 名中１名出席	原案可決 原案可決
第２回 令和５・３・24	議案第１号　令和５年度事業計画について 議案第２号　令和５年度資金収支予算について	評議員総数 26 名中 19 名出席 監事総数 2 名中 0 名出席	原案可決 原案可決

■監査会の開催

実施年月日	監　査　内　容	出　席　者	結　果
令和４・5・18	令和３年度事業監査及び会計監査の執行	監事総数 2 名中 2 名出席	承　認

（２）社協会員募集

会員規程第７条に基づき、４月から７月を募集期間として、区長・自治会長を福祉委員に委嘱、各班長を福祉協力員に依頼して会員募集の推進を図りました。

会員の種類	Ｒ４年度		Ｒ３年度		増　減	
	会員数（人）	会費額（円）	会員数（人）	会費額（円）	会員数（人）	会費額（円）
一般会員（1 世帯 500 円）	7,709	3,854,500	7,792	3,896,000	▼83	-41,500
賛助会員（1 世帯 1,000 円）	29	29,000	32	32,000	▼3	-3,000
特別会員（1 世帯 5,000 円）	3	15,000	4	20,000	▼1	-5,000
特別会員（法人会員）	31	155,000	37	185,000	▼6	-30,000
合　計	7,772	4,053,500	7,865	4,133,000	▼93	-79,500

＊会員加入世帯率 79.9%　〈自治会加入世帯 9,685 世帯　参考自治会加入率 63%）

（３）組織体制の強化及び職員の資質向上

職員の専門性や課題解決能力等の向上を図るため、埼玉県や県社会福祉協議会が主催する研修等に参加するとともに、組織風土の改善や法令順守を推進するため、内部研修を実施し、職員の資質向上に努めました。

（４）各種委員会の開催

社協内に、感染防止委員会、虐待防止委員会、事業継続計画（BCP）策定委員会を設置し、各部署が情報を共有しながら連携して組織の課題解決に向けた検討を進めました。

各委員会等	内容
感染防止委員会	年４回　感染防止に関する研修会の検討実施
虐待防止委員会	年４回　虐待防止に関する研修会の検討実施
事業継続計画（BCP）策定委員会	年５回　社協業務の継続計画（BCP）の策定に向けた検討実施

（５）広報・ホームページ　　計　423,225 円（R3 年度 328,500 円）

町民並びに会員に対し、社協活動の周知徹底と福祉サービスの情報提供を図るため、広報紙「社協宮代」、「ひまわりだより」を発行しました。また、Facebook で広報紙では伝えきれない情報を積極的に投稿した他、社協の登録団体（すてっぷ宮代活動チーム）の活動を中心としたすてっぷカレンダーの作成等を行い、ホームページを充実させました。

発行物	回数等
社協宮代	年３回　（第９６号・第９７号・第９８号）
ボランティアセンターたより	年１回　（第２８号）
「ひまわりだより」（宮代ひまわりの家）	年１回　（第３７号）

２　地域福祉の推進

（１）地域福祉活動の推進

住民参加による地域福祉活動及び多様な組織や関係者との地域福祉活動のネットワークを構築するため、住民主体の見守り活動を広げていく「みまもりの「わ」事業」をスタートさせるとともに、地区・自治会及び地域交流サロン等の活動を支援しました。

①みまもりの「わ」事業　　計　121,545 円　(R3 年度　42,900 円)

地域で誰もが安心した生活が送れるよう、さりげない見守りを行う見守りサポーター（個人登録:みまもりさん、団体登録:みまもり団員、事業所登録:みまもり協力店）を募集し、支援を必要としている方が地域で孤立しない見守り体制を構築しました。

■見守りサポーター登録確保に向けた取組み

項　目	実施状況
みまもりさん養成講座	参加者１２名　＊講座の他随時説明会開催
みまもり団員説明会	１６団体
出張みまもり劇団の開催	２回

■見守りサポーター登録状況　＜令和５年３月末現在＞

種　類	登録者数等
みまもりさん（個人登録）	１００名
みまもり団員（団体登録）	４２６名（２０団体）
みまもり協力店（事業者や店舗登録）	２８店舗

②地区・自治会支援事業

地区・自治会に対し、会議室、多目的室の無料貸出しと併せてプロジェクターやスピーカー、マイク等の機材についても無料で貸し出すなど、地区・自治会活動を支援しました。

また、学生ボランティアと地域活動を結ぶ仕組みづくりについて検討を進めるため、区長・自治会長アンケートを実施しました。

＊アンケート回答地区・自治会数　５３団体

③地域交流サロン支援事業

年２回の地域交流サロン連絡会は、新型コロナウイルスにより開催できませんでしたが、資料の送付等により情報提供を行いました。

また、個別の相談に応じ、一芸ボランティアの調整や、広報作りにかかわるPCの支援等、活動の支援を行いました。加えて、埼玉県共同募金会が地域交流サロンの感染対策用品を購入するための助成や備品購入のための助成を行っていたため、活動再開の手助けになるよう、その周知や申込手続きの支援を行いました。

（２）福祉交流・活動拠点の推進

地域共生社会の実現に向けて、福祉活動団体等と連携する仕組みづくり（プラットホーム）を推進するため、西原自然の森拠点事業を実施し、人が集い、交流する機会を提供するとともに、社協と協働で地域福祉活動を実施する「すてっぷ宮代活動チーム登録制度」を構築し、多様な組織や関係者が相互に連携する機会を提供するなど、地域福祉活動のネットワークに向けて取り組みました。

①西原自然の森拠点事業　　計　293,688円　(R3年度130,473円)

福祉交流館すてっぷ宮代が地域福祉の拠点としての機能を高めていけるよう、様々な活動団体が連携して「西原自然の森フェスタ」を開催しました。フェスタをとおして福祉交流館すてっぷ宮代を広く周知するとともに、多くの人が集い、関わり、多様な福祉活動にふれる機会となりました。

■西原自然の森サマーフェスタ

項　目	内　容
開催日	令和４年７月３０日（土）
実施団体	町、社協（共催）
協力団体等	日本工業大学、ボランティア団体等
社協の実施内容等	「福祉・学び・環境」をテーマに、福祉体験（手話、点字、車いす、さをり織り）、一芸ボランティアによるミニミニショー、オレンジカフェ、貝工芸体験　古本市など
参加者	約４０９名

■西原自然の森フェスタ

項　目	内　容
開催期間	障害者週間に合わせた令和４年１２月３日（土）～9日（金）
実施団体	町、社協（共催）
協力団体等	日本工業大学、介護や障がい分野の事業所、ボランティア団体等
社協の実施内容等	「福祉・学び・環境」をテーマに、認知症パネル展示、認知（笑）川柳、フードパントリー、ふれあい友の会交流会、ユニバーサル野球大会（障がい者交流会）、オレンジカフェ、おたから市、貝工芸体験、さをり織り体験、ハナレンジャーを探せ　など
参加者	延べ５８４名

②すてっぷ宮代活動チーム交流会　　計　57,183円（R3年度　　0円）

地域福祉活動を推進するため、社協と協働で地域福祉活動を実施する「すてっぷ宮代活動チーム登録制度」を構築し、すてっぷ宮代活動チーム登録団体を対象とした交流会を開催しました。

■すてっぷ宮代活動チーム登録団体　６２団体（令和５年３月末）
■すてっぷ宮代活動チーム出会い系交流会　団体さんいらっしゃい

実施日	参加者数	内容
R5年3月4日（土）	35団体（57名）	テーマ　つながる力　つなげる幸せ 社協とつながり、他団体と協働して地域を広げる講演と交流会

③スポーツフェスティバル　　計　14,097円　（R3年度　　0円）

これまで社協で実施してきた「ふくし運動会」にかわり、年齢、性別、障がいの有無に関係なく誰もが自由に参加できる、町主催の「町民スポーツフェスティバル2022」に参加しました。

■スポーツフェスティバル2022

項　目	内　容
実施日等	令和４年１０月９日（日）　宮代町総合運動公園
協力団体等	さわやかクラブ連合会
社協実施内容	巨大カルタ大会、輪投げ、バッゴー
参加者	社協イベント202人。 スポーツフェスティバル全体では延べ4,436人。

（３）福祉のまちづくり啓発活動

福祉のまちづくり啓発活動として、関係機関と連携し、福祉教育の充実及び認知症にフレンドリーなまちづくりを発信し、地域福祉に関心と理解を深めました。

①社会福祉協力校指定事業　　計　450,000 円（R3 年度 450,000 円）

児童生徒に対し、福祉への理解と関心を高め、ボランティアや社会連携の精神を養うとともに、児童生徒をとおして家庭や地域社会へ福祉の啓発を図ることを目的に、福祉活動を実施する町内小・中学校・高校、特別支援学校の計 9 校を社会福祉協力校として指定し、１校当り 5 万円を限度とする補助金を交付しました。

■福祉指定校　　小中学校全校及び県立宮代高校、県立宮代特別支援学校

学　校　名	福　祉　協　力　校　実　施　事　業　内　容
須　賀　小	・地域の方への手作りしおり・手紙のプレゼント―材料　　・花いっぱい運動―花苗、肥料等
百　間　小	・ふれあい体験事業―田植体験謝礼　・交流事業（ボランティア・地域の方々へ花等の配布、4 年生交流学習、ふれあい委員会活動）　・環境整備-花苗、土 ・募金・回収活動―ユニセフ・赤い羽根・緑の羽根募金容器 等
東　　小	・花いっぱい運動―花苗 ・ボランティア福祉教育（地域の方々への手紙・花のプレゼント）
笠　原　小	・福祉体験活動（広報啓発活動、埼葛人権のつどいへの参加） ・福祉意識の啓発活動（一人一鉢運動、学校ファーム、環境美化） ・地域社会における福祉活動（高齢者支援施設との交流、ボランティアに感謝を伝える行事、募金活動）
須　賀　中	・高齢者との交流（高齢者を運動会に招待）―飲料、板氷 ・校内緑化・環境整備―花苗、土、肥料、清掃用具
百　間　中	・百中緑化（花壇づくり、校内ボランティア活動の推進、生徒会活動との連携） ・福祉体験学習（車椅子体験、町の福祉に関する調査・研究）
前　原　中	・地域の子どもや高齢者が訪問しやすい環境づくり―折り畳み机
宮 代 高 校	・春日部特別支援学校分校との交流事業
宮代特支学校	・ボランティア活動の充実に関する事業-感染対策用品、感謝状等材料費 ・支援籍児童に関する材料費

②福祉教育への支援

各小中学校に対し、ボランティア団体による体験学習の調整や、福祉体験機器の貸出しを行い、福祉教育を推進するための支援を行いました。ボランティア団体による体験学習は、昨年度同様、新型コロナウイルスの影響を鑑み、ボランティア・学校、相互の安全を考慮し、体験内容の変更や時間短縮等を行い、感染対策をしたうえで実施しました。また、車椅子体験では今年度より当事者の方の協力を得て、メニュー内容を変更しました。

■ボランティア団体等とともに行った体験学習（機器貸出のみは除く）

体験学習名	手話体験	点字体験	ガイドヘルプ体験	車椅子体験	福祉の入口
（協力団体）	宮代手話の会	点字サークル宮代	ｶﾞｲﾄﾞﾍﾙﾌﾟ「ユーアイ宮代」	みやしろ団世会・荒木親子	（福）じりつ
東小学校	○	○	○	○	－
笠原小学校	○	○	○	○	○
百間中学校（1 年生）	－	－	○	－	－
百間中学校（2 年生）	－	－	○	－	－
百間中学校（3 年生）	○	－	－	－	－

■福祉体験機器の貸出し

福祉機器	保有数	R４年度貸出数量延べ数	R３年度
高齢者擬似体験セット	10 個	29 個	30 個
車いす	34 台	10 台	22 台
白杖	10 本	41 個	13 本
アイマスク	100 枚	260 個	50 枚
点字器	30 個	50 個	20 個

③日本工業大学との連携

今後の共生社会や支え合いの地域社会を考えていく中で、高齢者だけでなく現役世代や学生等へのアプローチを同時に行っていく必要があり、日本工業大学と多面的な分野で連携ができるよう月に１回程度ミィーティングを行いました。

また、認知症があっても住みよい街を目指すという観点から、宮代町立図書館と連携し実施した『認知症にフレンドリーな社会を目指した合同展』、『認知（笑）川柳作品展』のほか、世代を超えた支え合いの風土を構築すべく、日本工業大学の学生と高齢者の交流の機会を当法人の居宅介護支援事業所が中心となって実施しました。これらの多様な取組みを通じて、認知症を身近なものとして捉える機会を提供しました。

また、、日本工業大学にて、福祉機器を扱う会社や宮代町健康介護課、町内で認知症予防につながる取組みを実施している団体等と連携し、『宮代で共に暮らす福祉展』開催しました。

■宮代で共に暮らす福祉機器展　～認知症にフレンドリーな社会に向けた合同展 Vol. ２～

項　目	内　容
企画運営	宮代町健康介護課、宮代町社会福祉協議会、日本工業大学、株式会社 CROS（パナソニックエイジフリーショップ蓮田白岡）
日時	２０２３年３月９日（木）
会場	日本工業大学５号館
参加者	約４００名

３　高齢者・障がい者・児童福祉の推進

（１）高齢者福祉の推進

ひとり暮らし高齢者の安否確認活動や交流事業をはじめ、縁じょい事業にかかる交流会や新たな情報発信（YouTube 動画）により、高齢者のやりがい、生きがいづくりをとおした社会参加の促進に取り組みました。

①ふれあい友の会事業　　計　977,662 円(R3 年度　874,098 円)

ふれあい友の会登録者（社協に登録された 65 歳以上のひとり人暮らしの方）に対し、見守り活動の一環として、夏と歳末の年２回、慰問品配布をとおした安否確認を実施しました。

また、西原自然の森フェスタにおいて、ふれあい友の会登録者同士の交流を図る機会を提供しました。

■ふれあい友の会登録者数　３２０名（令和４年度末）　（令和３年度３２６名）

■慰問品配布　＊当該事業費は赤い羽根共同募金の分配金が充てられています。

実施日	配布者数	配布品	協力団体
R４年８月下旬～９月上旬	３２０名	ご当地商品券 「ありがとう」	民生委員 児童委員協議会
R４年１２月中旬～下旬	３２０名	障がい者支援事業所 取扱い品 （さをり織製品、貝工芸品、おせんべい、乾燥シイタケ）	

■ふれあい交流会

実施日	参加者数	内容
R４年１２月６日（火）	３０名	一芸ボランティアミニミニショー （防災士による腹話術ミニ講習会、民舞＆スコップ三味線） 巨大ビンゴ大会

②生活支援体制整備事業（町からの受託事業）　　計　4,400,000 円（R３年度 4,200,000 円）

■地域訪問による情報収集・情報発信及び生活支援に繋がる事業の PR

地域で開催している地域交流サロンを訪問し、サロン参加者から地域の状況等の把握を行いました。また、サロンの取組みをＦａｃｅｂｏｏｋで発信しＰＲするとともに、縁じょい通信（5 月・10 月・1 月）を作成し、縁じょいメンバー登録者に送付しました。

＊述べ 1,273 名（前年比＋92 名）

■縁じょい交流会の開催

西原自然の森フェスタの期間中に、縁じょい登録者間のつながりと地域デビューのきっかけづくりを目的とした縁じょい交流会を開催しました。

項　目	内　容
開催期間	令和 4 年 12 月 4 日（日）
テーマ	チャレンジ
講師	牧野美千子氏（女優として戦隊シーズ超電子バイオマン（ピンクファイブ）で活躍され、現在は埼玉県『地域デビュー楽しみ隊』として活動中
実施内容	地域に一歩を踏み出すための講演 縁じょい登録者同士の交流
参加者	２５名

■シニア初めて講座の開催

縁じょいメンバー登録者を対象に、体と心が健康になるための習慣を知っていただくことを目的としたシニア初めて講座を開催しました。

項　目	内　容
実施日等	令和 5 年 3 月 13 日（月）福祉交流館すてっぷ宮代
講師	磯島昌彦氏　花畑メンタル・ヘルス・ヒーリング院長
実施内容	第一部　足元からの健康法 第二部　心の栄養になる話
参加者	３４名

■認定ヘルパー養成講座

生活支援の担い手を育成するため、認定ヘルパー養成講座を開講しました。

項　目	内　容
実施日	令和 4 年 11 月 8 日、11 日、15 日、18 日の 4 日間
講師	宮代町社会福祉協議会ホームヘルパーステーション管理者　林直人
実施内容	宮代町独自の認定資格である、『宮代町認定ヘルパー』の資格を取得できる講座 資格取得後には、介護保険における総合事業の支援を行っている事業所において、生活支援（掃除・買い物・洗濯等）の担い手として働くことができるもの ＊認定ヘルパー取得　講座終了後、説明会を開催して、活動先を紹介し、その中で 1 名の方が、宮代町社会福祉協議会のホームヘルパーとして勤務して頂くことになりました。
参加者	８名

■協議体への参加

生活支援の担い手育成の進め方や、担い手が活躍できるフィールドをつくるための話し合う場所となる協議体を開催しました。当初は、対面方式の会議を開催していましたが、新型コロナウイルスの蔓延状況に対応して、今年度においても引き続き、ZOOM と、直接来所される方法を混ぜて実施するなど、人流抑制に配慮しながら協議体（地域支え合い会議）を実施しました。

（２）障がい者福祉の推進

障がいへの理解を深め、障がいのある方が地域で安心して暮らせるよう、障がいのある方と地域を結ぶ交流事業を実施するとともに、手話講座を開催しました。

①障がい者交流事業　　計　56,836 円（R3 年度　0 円）

町内外の障がい福祉サービス事業所利用者や、百間小学校の生徒を交え、「ユニバーサル野球大会」を開催しました。

障がいのある方だけではなく、小学生も一緒に参加してチーム対戦することで、競技を通じて同じ場と時間を共有し、お互いを応援する貴重な機会となりました。

■ユニバーサル野球大会

項　目	内　容
実施日等	令和 4 年 12 月 8 日（木）　すてっぷ宮代
実施内容	「野球盤」を 10 倍の大きさにしたユニバーサルスポーツ。障がいのある方、運動が苦手な方、誰でも参加でき、野球を楽しみながら応援される喜びと大切さを体験しました。
参加者	１２４名　町内外の障がい福祉サービス事業所（5 事業所、62 名）、百間小学校支援級（8 名）、4 年生（2 クラス、54 名）

②音訳 CD 点字本配布事業　　計　8,092 円（R3 年度　5,030 円）

音訳 CD については、ボランティアセンター登録団体である「みやしろ音訳ボランティア」の協力を得て、町広報・社協宮代・ひまわりだより・議会だより・久喜宮代衛生組合だより等を音訳したものを CD 化したうえで、視覚障がい者等 6 名へ配付し、情報支援を図りました。点字本については、ボランティアセンター登録団体である「点字サークル宮代」の協力を得て、社協宮代、ボランティアセンターだより、ひまわりだよりの広報紙を点字に翻訳し、すてっぷ宮代やぶどうの樹等に配架しました。

③手話講座事業（町からの受託事業）　　計　443,863 円（R3 年度 459,706 円）

昨年度、新型コロナウイルスにより延期され、8 回分残っていた『基礎編』と、基礎編を修了された方、またはそれに準ずる方を対象に、日常会話レベルでのろう者の手話が読み取れ、手話の特徴を活かした表現ができるようになり、県手話通訳者養成講習会を受講できるレベルの手話の技術・知識の習得を目指す『レベルアップ編』を開催しました。

■手話講座

	期　間	受講生	回数	講師
基礎編	4 月 1 日（金）～6 月 3 日（金）の祝日を除く原則毎週金曜日	10 名	8 回	野中 加津枝 氏 （久喜市聴覚障害者協会）
レベルアップ編	7 月 1 日（金）～11 月 25 日（金）の祝日を除く原則毎週金曜日	10 名	20 回	

（３）児童福祉の推進

子どもたちの孤立を防ぎ、子どもたちが安心して過ごすことができる居場所づくりを進めるため、子ども食堂「ゆうやけひろば」の運営をはじめ、地域の様々な活動団体等が主体となって取り組む「新たなこどもたちの居場所づくり」を推進しました。

①子ども食堂（ゆうやけひろば）事業　　計　411,250 円（R3 年度 180,728 円）

ゆうやけひろば実行委員会（ボランティア）とともに、様々な家庭の事情により、十分な食事を摂ることや、家族と食事することが難しい子ども・保護者等に対し、㈱新しい村生産者組合等の協力を得て、低価格での食事提供と居場所づくりを目的とした子ども食堂を、進修館の食堂にて開催しました。

今年度は６月より定期開催を再開し、新型コロナウイルス対策の為、会食形式ではなく、テイクアウト形式となりましたが、たくさんの参加がありました。また、『あそびば』も再開し、お弁当を待っている間やもらった後に、大学生等のボランティアと一緒に遊ぶなど楽しいひと時を過ごしてもらうことができました。

■子ども食堂（ゆうやけひろば）

項　目	内　容
開催日等	毎月 2 回（第２土曜日と第４木曜日の月 2 回 17：00～19：30）　合計　20　回
実施内容	テイクアウト方式のお弁当配布 おもちゃがあり、ボランティアと遊べる「あそびば」も同時開催 ＊8 月と 12 月に、ゆうやけひろばの参加者も含めた子育て世帯を対象とした『フードパントリー』を行いました。 （※（５）地域福祉事業 － サ）フードパントリー事業 参照）
参加者	延べ計 1,463 名（大人 522 名、子ども 941 名）

②お弁当配達事業（町からの受託事業）　　計　2,256,545 円（R3 年度　1,496,807 円）

町からの委託を受け、見守りが必要な子育て世帯に対し、週一回（毎週火曜日）のお弁当配達を通じて子どもの見守りを実施しました。

■対象世帯（※令和５年３月時点）　11 世帯　45 名　　配達回数　51 回

③新たな子どもの居場所事業

宮代町囲碁クラブの協力により毎週開催されている『こども囲碁教室』をモデル事業とし、すてっぷ宮代活動チーム等と連携した新たな子どもの居場所づくりを進めました。

また、すてっぷ宮代に、子どもや保護者が気軽に来られる機会をつくるため、子ども向けのイベントの開催や交流スペース・キッズスペースの充実を図りました。

■囲碁教室すてっぷ宮代活動チーム（宮代町囲碁クラブ）によるこどもの居場所

実施日	参加者数	内容
毎週金曜日 午後 3 時～5 時	毎回 15 名程度	すてっぷ宮代活動チーム登録団体囲碁クラブによるこども囲碁教室を開催

■すてっぷ宮代夏休みこどもの日（全館開放）

実施日	参加者数	内容（協力団体等）
R４年８月２６日（金）	200 名	輪投げ、バッコー、紙トンボづくり（さわやか連合会） 駄菓子屋（放課後駄菓子屋ふさや） 囲碁教室（宮代囲碁クラブ） 貝工芸づくり（社福法人じりつ） インタラクティブゲーム体験（日本工業大学） オリジナルうちわづくり、わくわくくじ、 まんがコーナー

■こどもの居場づくりセミナー　＊主催　埼玉県　共催宮代町　社会福祉協議会

実施日	参加者数	内容（協力団体等）
R５年１月２９日（日）	・セミナー 60 名 ・あそび場 140 名 合計 200 名	「見て！聞いて！楽しんで！みんなでつくろう！こどもの居場所づくりセミナー」 基調講演/居場所づくり事例発表/居場所づくりパネル展示/居場所づくり相談会/こどもの居場所づくりで遊ぼう

４　ボランティア活動の推進（ボランティアセンターの運営）

（１）ボランティア活動の推進

■ボランティアセンターの運営　　計　120,000 円（R2 年度　　0 円）

地域住民のボランティア活動に関する理解と関心を深め、ボランティアの育成、援助を行い、地域福祉の増進を図ることを目的に、ボランティアセンターを運営しました。

ボランティアセンターだよりの発行や HP・Facebook、イベント等で周知を図った他、登録ボランティア団体・個人ボランティアと、「ボランティアを依頼したい人（団体・施設）」、「ボランティア団体への加入を希望する方」などを繋げ、調整しました。（相談件数 41 件）

■登録ボランティアの状況

※　福祉ボランティア兼一芸ボランティアの団体や、複数団体加入の方もいるため、団体数・人数については、重複あり

種別	内容	団・個別	登録数
福祉 ボランティア	福祉を目的にしたボランティアまたは、慰問活動など福祉に関わる活動が中心のボランティア	団体	18 団体（223 名）
		個人	ぶどうの樹、ひまわりの家、宮代特別支援学校等各活動先で管理
一芸 ボランティア	施設やサロン等に訪問し、演奏やマジックなどを披露するボランティア	団体	27 団体（372 名）
		個人	16 名

■ボランティア保険加入取扱状況（ボランティア保険受付業務）

基本プラン		天災プラン		感染症プラン		合計	
保険料 350 円		保険料 500 円		保険料 550 円			
人数	金額	人数	金額	人数	金額	人数	金額
653 人	228,550 円	99 人	49,500 円	30 人	16,500 円	782 人	294,550 円

■ボランティア連絡会　＊登録団体　　13 団体

登録ボランティア団体間の情報交換をとおして相互理解と親睦を深め、ボランティア活動の拡大と協力体制の充実を図ることを目的とした「ボランティア連絡会」ですが、新型コロナウイルスの影響等で活動を縮小している団体が多いことや、サンクスフェア等のボランティア全体の事業の実施が無かったことから、初年度に顔合わせと意見交換を目的に 1 回のみの開催となりました。各団体の活動状況については、電話や活動日に訪問することで把握し、必要に応じて情報共有しました。（令和 4 年 5 月 9 日（月）10 団体（12 名）参加）

■スマホ・パソコン何でも相談会

日本工業大学と連携し、情報メディア工学科の学生が、期間中すてっぷ宮代に待機し、情報ボランティアとして相談に応じる「スマホ・パソコン何でも相談会」を実施しました。

実施日	学生情報ボランティア	相談件数
R4 .5～７月	３３名	５２３件
R4 .10～ R5 .1 月	５２名	５３２件

■災害ボランティアセンター運営事業

災害時において、住民ニーズに添った支援をするためには、混乱時にも的確にボランティアを派遣するノウハウを蓄積することが必要なため、赤十字奉仕団と連携し、災害ボランティアセンター立上げ訓練を実施しました。

実施日	参加者数	内容
R5 年 2 月 25 日（土）	３３名	ボランティアの受入れ、ボランティア要望の受付、ボランティア活動の調整、送出し訓練等

５　相談支援・権利擁護

（１）日常生活自立支援

住民の皆様の生活上の悩みや相談に応じるとともに、個人の尊厳と意見が尊重され、適切な福祉サービスが選択できるよう、あんしんサポートねっと事業により、一人ひとりの生活に寄り添った必要な支援を行いました。

①心配ごと相談　　計　6,900 円（R3 年度　3,600 円）

毎月第 2 木曜日の午後 1 時 30 分から 3 時 30 分までを相談日として、民生委員・児童委員が相談員となり、住民の生活上の悩みごとや心配ごとなどのあらゆる相談に応じ、適切な助言指導を行いました。

＊相談日数１２日　　＊相談件数３件（電話相談含む）（R3 年度 3 件）

②あんしんサポートねっと事業

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分な方に対し、生活支援員による福祉サービスの利用援助を行い、地域において自立した生活が送れるよう支援しました。

■あんしんサポートねっと利用者

対象者	前年度より 継　続	R4 年度中 新　規	R4 年度中 解　約	R4 年度末現在 契約者数
認知症高齢者	６名	３名	２名	７名
知的障がい者	３名	１名	１名	３名
精神障がい者	１名	0 名	0 名	１名
合　計	10 名	4 名	3 名	11 名

■あんしんサポートねっと援助内容等

援助内容		生活支援員
金銭管理 通帳預り 書類預りサービス （銀行貸金庫で管理）	11 名 (8) 名 (1) 名	2 名

（２）生活困窮者支援

経済的に厳しい生活困窮世帯を対象に、フードドライブを活用した食糧等支援や生活資金の貸付事業等を実施し、住民の皆様の自立した暮らしを支えました。

①彩の国あんしんセーフティーねっと

社会福祉法人格を有する施設（もみの木、みどりの森）と社会貢献支援員（久喜市の鶴寿荘）と社協が協働して実施する事業で、地域の生計困難者の身近な相談機関として、滞納している公共料金の支払や生活費等に対し 10 万円を限度に支援しました。

■対応件数３件　（令和 3 年度 対応件数 0 件）

②生活困窮者自立支援事業

生活困窮者に対して、生活保護に至る前の支援を行うことにより、対象者の自立の促進を図る事業で、社協は、町とともに相談窓口であるアスポート相談支援センター埼玉東部へつなぎました。

■相談件数５件　（R3 年度　相談件数 39 件）

また、福祉資金やあんしんセーフティーねっと等の制度の対象にならない生活困窮者の方に、連合埼玉が運営しているネット 21 久喜というフードバンクから提供を受けた食料や地元の方から寄付された食料を届けました。

■給付件数１３４件　（令和 3 年度　給付 127 件）

③フードパントリー事業　　計　53,891 円　（R3 年度 941,699 円）

町からの委託事業として、新型コロナウイルス感染症の影響等による生活困窮世帯等に対する支援として、食品食材等の無償提供を行いました。また、今年度は、寄付等で宮代社協

に集まった食品の仕訳や配布、フードバンク拠点への回収作業を行う「フードドライブボランティア」の養成講座を開催し、活動を開始しました。

■フードパントリー

項　目	内　容
食品寄付 BOX の設置	町内８カ所　（宮代町福祉課　子育て支援課　町内郵便局３か所　新しい村　無印良品　社会福祉協議会）
食品寄付の受付	総重量　約　１９３６．７１　kg
フードパントリー(食品の配布)	生活困窮世帯(第１木弁当配布時)　232 世帯　(614 名) 生活困窮世帯(随時相談に応じて)　134 世帯 子育て世帯（夏休みパントリー）　25 世帯　(91 名) 子育て世帯（冬休みパントリー）　42 世帯　(158 名) 他 日本工業大学へお米・アルファ米の提供（６月・11 月）
フードドライブボランティア養成講座	７月１４日(木) 申込者 10 名、受講者８名
フードドライブボランティア	登録者 19 名

④生活困窮世帯へのお弁当配布事業　　計　2,036,560 円（R3 年度 1,643,301 円）

町からの委託事業として、新型コロナウイルス感染症の影響による生活困窮世帯等に対する支援として、食事食材等の無償提供を行いました。お弁当は、町内８つの業者にローテーションでお弁当を作ってもらいました。(提供総数：2,345 食)

実施月	主な対象	申込世帯数	申込人数
4～5 月	特例貸付申込者	23	50
6～7 月	特例貸付申込者	22	48
8～9 月	ひとり親世帯	15	51
10～11 月	特例貸付申込者	20	53
12～1 月	ひとり親＆子ども食堂利用世帯	14	54
2～3 月	特例貸付申込者	22	51

（３）福祉資金貸付

生活費に困窮している低所得者世帯に対し、応急的な資金の貸付と必要な助言指導を行うことにより、経済的自立と生活意欲の助長促進、在宅福祉や社会参加を図り、その世帯の安定した生活を確保しました。

①宮代町福祉資金の貸付

福祉資金貸付規程に基づき、低所得者世帯に対し、生活の安定と自立の助長を図るため、民生委員の同意を求め、意見書を付して 10 万円を限度として、応急的な資金の貸付けを行いました。

■宮代町福祉資金

項　目	内　容
貸付件数	44 件／1,382,000 円（R3 年度 41 件／1,655,150 円）
償還金	1,211,000　円
欠損処理	87,000　円（
未償還金（累計）	4,757,183　円（R5.3.31 現在）

②生活福祉資金（県社協）の活用促進

新型コロナウイルスの影響により失業してしまった方や減収してしまった方への特例貸付を宮代町社会福祉協議会で受付をし、埼玉県社会福祉協議会へ申請しました。実際の貸付は、埼玉県社会福祉協議会で行いました。

■特例貸付（令和４年９月まで実施）

項　目	内　容
緊急小口資金	31 件　　6,100,000 円※（１世帯申込上限 20 万円）
総合支援資金	26 件　　13,050,000 円※（１世帯申込上限 45 万円、2 人以上世帯は 60 万円）

■通常貸付

項　目	内　容
緊急小口資金	0 件　　0 円　（R3 年度 0 件）
教育支援資金	0 件　　0 円　（R3 年度 1 件 390,000 円）
要保護不動産	0 件　　0 円　（R3 年度 0 件）

■法外援助

行路者旅費貸付及び支給規程に基づき、旅費（交通費）に苦慮している方に対し、原則１人当り 300 円を貸付または支給しました。

＊貸付件数　　7 件　　2,700 円（R3 年度　17 件　7,200 円）

６　在宅福祉サービス

福祉車両や各種福祉機器を無料で貸出すことにより、歩行が困難である高齢者及び身体障がい者、病気療養中の方などの日常生活の負担を軽減し、高齢者等の社会参加の促進に努めました。

また、高齢者や障がいのある方等に対し、各福祉関係法や制度では担えない家事支援及び簡易的な介護等のサービス等を提供することにより、高齢者等の自立促進及び生活の質の確保を図りました。

①福祉機器貸出し事業

在宅の高齢者及び身体に障がいがある方等の日常生活の負担を軽減するため、福祉機器・福祉用具の貸出しを行い、在宅における福祉の増進を図りました。

福祉機器	保有数	R４年度貸出数量延べ数	R３年度
車いす	34 台	55 台	52 台
シャワー椅子	6 台	9 脚	5 脚
歩行器・シルバーカー	10 台	9 台	6 台
松葉杖・四点杖・一点杖・ロフストランドクラッチ	21 本	19 本	4 本

②福祉車両貸出事業

歩行が困難な高齢者及び障がいのある方に対し、車いすに座ったまま走行できるリフト付車両を貸し出すことにより、歩行の困難な方々の行動範囲を広げ、積極的に社会参加する機会を確保しました。

	R4 年度		R3 年度	
	延べ件数	延べ日数	延べ件数	延べ日数
タント	88 件	145 日	88 件	162 日
アトレー2 号	85 件	152 日	75 件	117 日
計	173 件	297 日	163 件	279 日

③まごころ支援サポート事業

高齢者等に対し、各福祉関係法に基づかない通院同行や外出介助、生活援助を行うことにより、利用者が安心して在宅で生活を営むことができるよう努めました。

項目	R4 年度	R３年度	比較
提供件数	延べ 57 件	延べ 77 件	▼20 件
提供時間数	211 時間	272 時間	▼61 時間
利用料収入額	233,220 円	280,890 円	▼47,670 円

７　介護・障がい福祉サービス

（１）居宅介護事業所　　計　17,530,299（R3 年度　16,849,570 円）

①介護予防支援事業

要支援状態にある高齢者等について、町地域包括支援センターから委託を受け、要介護状態になることを予防するための心身の状態の維持や改善を考慮した中で、ケアマネジャーが利用者に合ったケアプランを作成しました。

項　　目	R4 年度	R３年度	比較
介護予防ケアプラン作成件数	延べ 212 件	延べ 243 件	▼31 件
介護予防ケアプラン作成報酬額	980,853 円	1,093,787 円	▼112,934 円

②居宅介護支援事業

要介護状態にある高齢者等に対し、ケアマネジャーが利用者の要望に添いながら、一人ひとりの心身の状況にあったケアプランを作成しました。利用者がこの町で安心して在宅で暮らしていただくために、質の高いケアマネジメントを行うことに努めました。

項　目	R4 年度	R3 年度	比較
ケアプラン作成件数	延べ 1,212 件	延べ 1,237 件	▼25 件
ケアプラン作成報酬額	18,626,399 円	19,078,717 円	▼452,318 円

要介護度別（件）	要介護度別（件）	要介護度別（件）	要介護度別（件）	要介護度別（件）
要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
559	294	135	102	116

（２）訪問介護事業所　　計 34,376,387 円　（R3 年度 35,195,572 円）

①介護予防日常生活支援総合事業

要支援状態にある高齢者等を対象に、要介護状態になることを予防し自立した日常生活を支援するため、ヘルプサービスを行いました。

項目	介護予防日常生活支援総合事業		比較
年　　度	R4 年度	R3 年度	
サービス提供件数	延べ 184 件	延べ 185 件	▼1 件

②訪問介護事業

要介護状態にある高齢者等に対し、その人がその人らしく在宅でいつまでも暮らせるよう、心身の状況に合わせた身体介護、生活援助のホームヘルプサービスを行いました。

項目	訪問介護		比較
年　　度	R4 年度	R3 年度	
サービス提供件数	延べ 649 件	延べ 598 件	＋51 件

③ヘルパーの資質向上研修

実施月日	実施内容
R4・4・14（木）	令和４年度の新体制及び年間計画について・講義：事故マニュアル・事務連絡・実技研修：「オムツ交換、体位変換」・検討会議
R4・5・１2（木）	講義：接遇について・検討会議・実技研修「食事介助・杖歩行」・事務連絡
R4・6・09（木）	講義：「感染症対策」・「訪問介護感染予防対策について」・検討会議・事務連絡
R4・7・14（木）	講義：「倫理・法令遵守」・検討会議　・事務連絡
R4・8・18（木）	研修：虐待防止　・検討会議　・事務連絡
R4・9・08（木）	調理研修「高齢者向けの調理方法」・検討会議　・事務連絡
R4・10・13（木）	実技研修：「着脱」・研修：「事故発生、再発防止策。ヒヤリハット」「薬についての知識」・検討会議　・事務連絡
R4・11・10（木）	研修：「感染症対策」・検討会議・事務連絡
R4・12・08（木）	調理実習：火をつかわない調理・連絡事項　・検討会議　・事務連絡
R5・1・12（木）	研修：「BCP 研修」・検討会議　・事務連絡
R5・2・09（木）	研修：「救命救急研修」講師日本赤十字社・検討会議　・事務連絡
R5・3・09（木）	研修：「認知症サポーター研修」・実技研修「高齢者向けの調理方法」・検討会議　・事務連絡・令和５年度の計画作成

（３）障がい福祉サービス事業

障がい特性、本人や保護者の意向、その他の事情を踏まえた個別支援計画を作成し、相談支援事業所とも連携をして個々の利用者の状態に応じた作業提供、活動環境を提供することに努めました。

①　宮代ひまわりの家　　計 96,236,930 円　(R3 年度 93,144,936 円)

障害者総合支援法に基づき、障がい福祉サービス事業所として生活介護、就労継続支援 B 型事業を提供しています。今年度は、1 名の新規利用者（年度途中）、3 名の退所者（転居、永眠、他事業所利用変更）があり、計 48 名の登録利用者が在籍、活動しました。

また、自主通所の困難な利用者が安心して通所できるよう、継続して送迎サービスを実施しています。今年度は車イス使用の利用者が安全に車輌乗降できるよう、送迎車（リフト車）を増便しました（送迎サービス利用者　32 名）。

■利用者の状況

項目	R4 年度	R３年度	比較
延べ利用人数	9,940 人	10,151 人	▼221 人

■班活動

作業班別	作業の内容	利用者（人）
資　源　班	大口の資源回収及び業者への搬入	4
回　収　班	町内を対象にダンボール等を回収	4
ひまわり班	タオル内職及び創作活動等	11
清　掃　班	保健センター、郷土資料館内の清掃業務、所内の特別清掃	4
さ を り 班	さをり織り（支援員による加工製品化） タオル内職及び創作活動、生活面の訓練	6
内　職　班	タオル内職、所内清掃、創作活動	8
洗　濯　班	六花内の老健入所者及び六花職員の衣類の洗濯	5
自動販売機班	自販機１７台への飲料補充、管理等　内職作業（ペン組立）	6
（ぶどうの樹）	ぶどうの樹進修館店での実習	※（4）
合　　計	４８人　　※（　）は再掲	

■実施した年間行事

昨年度に続き、コロナウイルス感染症対策により活動の制限、自粛を余儀なくされましたが、安全に配慮しながら可能な範囲で社会参加の機会や余暇活動の場が保たれるよう努めました。

項　目	内　　容
月ごとの行事	・ワクワクランチ…テイクアウト、出前などを活用して実施を継続（月１回） ・健康相談及び健康観察（月１回）
毎年の行事 （年１回）	・宿泊研修…活動班ごとに東武動物公園や清水公園などへの「日帰り研修」として実施継続　　R4.10～11 月 ・はじめの会…大人数での開催を控え、利用者、スタッフのみで実施継続　R4.4.1（金） ・納めの会…12 月の最終活動日の開催を継続し、屋外で書初めを行った　R4.12.28（金）
各作業班の取組み	少人数（班ごと）を基本としたレクリエーション等の活動 ・運動会　・公園などでのウォーキング　・夏祭り　・ミニコンサート　など

■給付費及び訓練等給付費収入

項目	R4 年度収入額	R4 年度 利用者数	R3 年度収入額	R3 年度 利用者数	比　　較
介護 給付費	77,788,750 円	生活介護 27 名	77,988,518 円	生活介護 28 名	▼199,768 円
訓練等 給付費	29,601,676 円	就労継続支援 B 型 21 名	30,262,833 円	就労継続支援 B 型 22 名	▼661,157 円
計	107,390,426 円	計 48 名	108,251,351 円	計 50 名	▼ 860,925 円

■就労支援事業収入　　計 13,646,810 円(R3 年度 13,084,933 円)

就労継続支援の一環として、引き続き宮代町保健センター及び宮代町郷土資料館の清掃業務、また公設宮代福祉医療センター六花の洗濯業務を受託しました。

その他、自主製品（さをり織り）の製作販売、内職活動（タオル内職、シャープペンシル組立作業)、自動販売機管理による飲料販売、町内の資源物回収など、利用者工賃の確保に向けた活動を継続しました。

②福祉の店喫茶ぶどうの樹　　計　3,838,134 円（R3 年度　4,361,107 円）

障がいのある方の働く場として、地域社会における理解促進や交流を目的として、進修館２階ロビーにおいて「福祉の店喫茶ぶどうの樹」を経営しています。

今年度は進修館の空調設備工事に伴い、12 月～4 月まで休業となりました。

その間の対応として、すてっぷ宮代内（ひまわりの家）の食堂設備にて飲食店営業許可を申請し、すてっぷ宮代来館者に対してコーヒー類の販売を試行的に行いました。

（４）相談支援事業（ひまわり）

障がい福祉サービス利用を希望する方のご依頼に応じて、総合的な援助方針や解決すべき課題を踏まえ、適切なサービスの組み合わせを検討し、サービス等利用計画及び定期的に支援を振り返るモニタリングを作成しました。

相談支援専門員が、利用者や家族の要望に添いながら、一人ひとりの心身の状況にあった支援提案、計画を作成し、適宜振り返りを行いながら、利用者が安心して暮らしていけるよう丁寧なケアマネジメントを行うことを心掛けました。

地域連携として、近隣事業所の「ふれんだむ」「庄内」と事業所協定を結び、機能強化型支援Ｉにより運営するとともに、毎月埼葛北地区自立支援協議会の相談支援部会に参加し、多角的な視点で支援提供しました。日常から顔の見える関係性を築き、その中で解決すべき課題を明確に、さらに質の高い地域資源の整備に寄与できるよう努めていきます。

項　　目	R4 年度	R3 年度	比較
サービス等利用計画、モニタリング作成件数	延べ 619 件	延べ 503 件	116 件
計画相談支援給付費収入	12,968,110 円	10,247,656 円	2,720,454 円

８　その他

（１）共同募金会宮代支会

①赤い羽根共同募金

募金活動への寄付をとおして、福祉に参加するという意義を啓発するとともに、資金の必要性を周知し福祉コミュニティの構築を促進することを目的に、埼玉県共同募金会の実施要項に基づいた赤い羽根共同募金を実施しました。

■赤い羽根共同募金

募金総額	R4	R3	
戸別募金	2,706,121 円	2,160,406 円	町内各自治会より
学校募金	32,996 円	39,976 円	町内小中学校、高校より
街頭募金	13,541 円	3 円	スポーツフェスティバルという町のイベントで街頭募金を行いました。 （利息分 3 円を含む）
職域募金	90,679 円	112,644 円	宮代町民委員･児童委員協議会 福祉関係職員、宮代町職員、社協職員より
法人募金	17,920 円	0 円	法人・企業より
個人募金	42,291 円	2,088 円	町内個人等より
計	2,903,548 円	2,315,117 円	

②地域歳末たすけあい募金

新たな年を迎える時期に、援助や支援を必要とする人たちが地域で安心して暮らすことができるよう、町内事業所等へ協力を依頼し、歳末たすけあい募金を実施しました。

■募金総額　　622,955 円（R3 年度 796,639 円）

（２）日本赤十字宮代町分区

①日本赤十字社会員募集

毎年５月に町内全域を対象に会員募集を行いました。この会費は、災害救護対策等を実施するための活動費であり、日赤の様々な活動を支える大切な資金となっています。

■会費総額　　1,616,330 円　（R3 年度 1,650,890 円）

②日赤災害救援物資及び災害見舞金の交付

災害救助法の適用に至らない災害（火災等）を受けた被災者に対する支援として、災害救援物資と災害見舞金を交付しました。

■火災見舞金　　２件　30,000 円　（R3 年度１件　20,000 円）

■災害救援物資配布世帯　　１件（日常生活用品・衣料等）　（R3 年度１件　布団・毛布等）

③宮代町赤十字奉仕団への支援

地域奉仕団として組織されている「宮代町赤十字奉仕団」の事務局として、奉仕団の活動を支援しています。令和４年度は、奉仕団とともに、献血周知活動やハイゼックス講習会を実施しました。

＊ハイゼックスとは…引張強度や耐熱性等に優れた高密度ポリエチレンの袋で、非常用炊出し袋として活用されています。ハイゼックスの引張強度や耐熱性等を活かし、災害時の避難所において炊飯器が使えなくても、水とお米とハイゼックス等があれば、鍋を沸かして温かいご飯を提供することができます。

④自主防災会への支援

町主催の防災訓練や地域自主防災会に対し、日赤埼玉県支部の協力のもと、防災への意識を高めることを目的とした救急法やハイゼックス講習等を実施しています。令和４年度は１件実施しました。